

## 地域の方・学生・教職員が自由に活用できる持続可能なパブリックスペースを目指して

高田 昌寛<sup>1</sup>, 阪上 奈巳<sup>1</sup>, 熊部 翔<sup>1</sup>, 近森 聡<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 藍野大学医療保健学部理学療法学科

### 報告概要

2022 年度より本学キャンパス内で「就労支援 cafe “3s cafe”」を運営している。その中で、2023 年度と同様に、就労者と本学学生が交流する「地域交流会イベント」を開催した。本イベントに参加した学生らは、「スポーツ」を通じて、多様なコミュニケーション場面を経験した。「就労支援 cafe “3s cafe”」は、地域と大学の課題解決を目指し、社会的要望に応える医療専門職育成の一助となる活動を継続していく。

#### 1. はじめに

本学では、2022 年度より「福祉的就労実践の場の減少（地域の課題）」および「医学を学ぶ学生の対外的コミュニケーション機会の喪失（本学の課題）」という二つの課題を解決する一手段として、キャンパス内に福祉的就労実践の場を拡げる取り組みを開始している。その中で、2023 年度と同様に、就労者と本学学生が交流する「地域交流会イベント」を開催した。本報告は、その実施状況および成果について述べる。本イベントの主たる目的は、参加学生が障がいのある方々との関係性構築におけるコミュニケーションスキルの重要性を再認識し、多様なコミュニケーション場面を経験することである。

#### 2. 実施内容

藍野大学地域連携プロジェクトの承認（承認番号：20-T24001）を得て、2024 年 9 月 17 日（夏期休業期間）および 2025 年 3 月 6 日（春期休業期間）、計 2 日間、両日とも午前中に開催した。藍野大学医療保健学部（看護・理学療法・作業療法・臨床工学学科）に在籍する全学生に対し、参加希望を募った。学生自身のコミュニケーションスキルアップを達成するために、臨床心理士による「コミュニケーションの本質」に関する事前講義を参加学生を対象に実施した。その後、地域交流会イベント「ボッチャ大会（図 1）」を開催した。参加学生らは、「障がいのある方々の誘導およびゲーム補助」を実践した。参加学生に対して、本イベント終了後、Google Forms を用いてアンケート調査を実施した。

#### 3. 結果・今後の展望

今年度の本イベントにおける参加者内訳は、本学学生計 12 名（内訳；女性 2 名、男性 10 名、未回答 0 名）、社会福祉法人より計 12 名の障がいのある方々、計 5 名の職員である。本学学生の「本イベントの満足度」は、満足 11 名、やや満足 1 名であり、「次回もこのようなイベントがあれば参加したいか」に対して、12 名が「参加したい」と回答した。「コミュ

ニケーション方法に関する事前講義の内容」について、「大変わかりやすかった（N = 11, 91.7%）」、「わかりやすかった（N = 1, 8.3%）」と回答し、「事前講義で得た知識・技術を地域交流会イベント内で活かすことができたか」について、「大変活かすことができた（N = 5, 41.7%）」、「活かすことができた（N = 5, 41.7%）」、「未回答（N = 2, 16.6%）」と回答した。地域交流会イベント参加学生に対するイベント終了後におけるアンケート自由記述結果については、表 1 に示すとおりである。「今後、自身の社会性／専門性に活かすことはできそうか」について、「かなりそう思う（社会性：N = 9, 75.0%）／（専門性：N = 8, 66.7%）」、「そう思う（社会性：N = 3, 25.0%）／（専門性：N = 4, 33.3%）」と回答した。

自由記述内容より、本イベントは参加学生らにとって「障がい者との関わり方を実践的に学ぶ貴重な機会」となったことが明確である。また、「楽しい」という感情が強調される一方、「伝えることの難しさ」や「相手に合わせた工夫の必要性」などの気づきも散見された。これらの点より、本イベントを通じた実践的な学びの効果が示唆される。今後の課題としては、本イベントから得られた気づきを臨床現場や日常生活にどのように応用していくかである。

昨今、障がい者の就労支援体制の整備が進み、就労移行・就労継続支援事業所の社会的認知度やサービス利用者が増加し、本領域における医療専門職参画へのニーズが高まっている。今後も「就労支援 cafe “3s cafe（さんず・かふえ）”」は、地域と大学の課題解決を目指し、社会的要望に応える医療専門職育成の一助となる活動を継続したいと考える。

#### 4. 謝辞

地域交流会イベントにご協力いただいた「社会福祉法人：花の会」の皆様、ならびに、藍野大学医療保健学部在籍し、参加いただいた学生の皆様および関係各部署教職員の皆様に対し、深謝いたします。



図1 地域交流会イベント「ボッチャ大会」

表1 地域交流会イベント参加学生に対するイベント終了後におけるアンケート調査結果（自由記述）

	質問内容	回答
問1	参加した主な理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの方と接する経験をしてみたかった</li> <li>・障がいを持つ人とどのように接していけばいいのかわりたかったから</li> <li>・障がいを持っている方とあまり関わったことがなかったため経験したかったから</li> <li>・ボッチャを通して障がいの方と交流してみたかったから</li> <li>・コミュニケーション能力を高めたいと思ったから</li> <li>・初めてのボッチャを通して花の会の方々と交流を深めたいと思ったから</li> </ul>
問2	参加した主な感想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終始楽しく障がい者を持つ方とコミュニケーションを取れた</li> <li>・このようなイベントに参加することが初めての経験だったがすごく楽しくできた</li> <li>・利用者の方との会話などは難しく上手く伝わったかは分からないが楽しかった</li> <li>・シンプルに事を伝えるというのがどれだけ難しいか、それを学べたい機会でした</li> <li>・スポーツを通してコミュニケーションを取ることができてよかった</li> <li>・3時間があったという間に感じるほど楽しかったし交流ができて勉強になりました</li> </ul>
問3	イベント参加前後で自身の变化したと思う点について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害を持たれる方に対してのコミュニケーションの取り方がボッチャを通して学べた</li> <li>・わかりやすい言葉、タイミングが大切だということがわかった</li> <li>・視野が広がった</li> <li>・これから様々なことにチャレンジすることが大事だと感じた</li> <li>・会話の難しさが理解できた</li> <li>・どうすれば伝わるのかや小さい反応でも読み取ることが大事ということに気が付いた</li> <li>・実際はもっとシンプルに端的に伝えないと上手く交流ができないんだと感じた</li> <li>・短い言葉で伝えることができるようになった</li> <li>・ジェスチャーやものを指すなどコミュニケーションには取り方がたくさんあること</li> <li>・障がいを持つ方達とそうでない人達とでは何も変わらないと感じた</li> <li>・スポーツを通してコミュニケーションを楽しむことができました</li> </ul>